## 果てしなき絶景~マティスの旅と作品への反映~その6(米国 NY→タヒチ)

山本 雅晴

マティスの次男のピエール(1900~1989)は 1925 年にニュヨークに渡り、画商となった。父マティスは当初、画商となることに反対した。1929 年の世界的な大恐慌で作品の価格の暴落や需要の低下で画家たちも苦しい時代となった。マティスは次男ピエールが NY で画商として活躍しだしたこともあり、1930 年に 3 度 NY を訪れている。しかし、NY を描いた作品は見当たらない。



図1 ニュヨーク市街の鳥観図



図2 当時世界一の高層ビルでのマティス、1930年

小生はマティスが訪れた 50 年後の 1981 年に初めて NY に会社の出張で訪れ、2001-9-11 にテロで焼失した ワールド・トレードセンター・ビルの屋上に上ったことがある。マティスが NY を訪れたのは、① NY 観光、メトロポリタン美術館・ブロードウエイのショーなど 3 日間。→ NY からシカゴ→ロスアンジェラス→サンフランシスコに行き、そこで以前の顧客のスタイン兄妹のサラ・スタインらの歓迎を受け、そこからタヒチに向かった。タヒチに約 3 ヶ月滞在後ニースに帰った。(1930-3~7)。② 1930-9 カーネギー賞の審査委員とバーンズからの装飾壁画の制作打ち合わせと契約。大壁画の割に 3 万 \$ と法外の安さに同席した画商ピエールはあきれていたが、マティスは承諾した。③ 1930-12 バーンズからの装飾壁画の制作現場確認・打合せと長年の顧客のコーン姉妹の住むボルチモアを訪問。

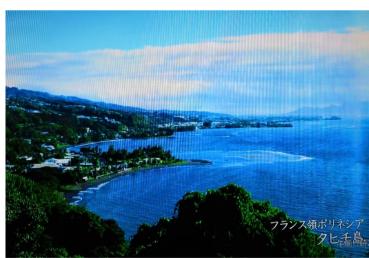


図3 タヒチ:マティスは1930-3-29~6-15 滞在

当時はフランス領で駐在のフランス人の軍人や政府の役人らの好意も 受けたが、時間を持て余した。マティスは水泳が得意で右図5のように 水中を泳ぎ回った。妻アメリーへの手紙にスケッチを送っている。

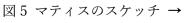




図4 マティスが水中メガネで見たタヒチの海



マティスは以前からゴーギャンに関心を持っていた。ゴーギャンの人柄や作品は好きではないが、色使いや 野生的な冒険心には興味を持っていたのかもしれない。

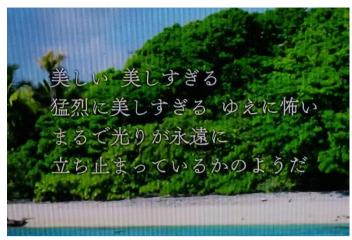




図6 タヒチの風景を表現したマティスの言葉

図7 タヒチ島の美しい島々

マティスはタヒチの風景画作品は描いていない。タヒチに関係のある作品はバーンズの依頼作品の「ダンス」

を完成させたのちに手掛けている。





図8 タヒチの窓(タピスリー用下絵),1935~36

図9 タヒチの窓 II,1936





図 10 ポリネシア、空 ,切り紙絵 1946, ポンピドー 図 11 ポリネシア、海 , 切り紙絵 1946, ポンピドー 図 10、図 11 は国立のゴブラン織りのタピスリー制作用のマケットに大画面(200x314)の切り紙絵を使用した。 これを使用したタピスリーは何種類か作成されている。